

授業科目名： 日本史概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：得能 弘一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>古代から現代にいたる日本の歴史に関する基礎的な知識を身につけるとともに、歴史学的な思考方法とはどのようなものかを知る。歴史とは先人の人生の積み重ねであり、先人の労苦に対しては「共感」を覚え、先人の失敗からは「教訓」を得ることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>15回の講義で全時代を概説するには余裕がないが、できるかぎりコンパクトにまとめ、日本の歴史の魅力を伝えたい。古代史（3回）・中世史（3回）・近世史（3回）・近現代史（6回）の順に、講義を中心とした授業となるが、特に、混乱期である鎌倉末期から南北朝期、江戸末期から明治初期、昭和戦前期については詳しく説明する。さらに、ローカルな視点から日本文化の特質を、グローバルな視点から国際社会における日本の立場を明らかにする。また、毎回「問い」を一つ出題するので、それに対する「仮説」も立ててもらいたい。なお、高等学校で日本史を履修しなかった受講者にも配慮はするが、できれば、高等学校日本史教科書を通読しておいて欲しい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：古代国家の形成 日本文化の黎明・統一国家の成立・古代文化の形成</p> <p>第2回：律令国家の発展 飛鳥の政治と文化・大化の改新・律令体制の成立</p> <p>第3回：貴族政治と平安文化の展開 律令政治の再建・唐風文化の成熟・摂関政治とその推移・国風文化の隆盛・院政と源平の盛衰</p> <p>第4回：武家政治の成立と文化の新気運 鎌倉幕府の成立・荘園の変質と産業の発達・鎌倉時代の文化・元寇と武家社会の動揺</p> <p>第5回：公武関係の変転と文化の変容 幕府の滅亡と建武の新政・南北朝と全国の動乱</p> <p>第6回：武家社会の展開と文化の発達 室町幕府の内政と外交・庶民の台頭と産業の発達・幕政の衰退と下克上・室町時代の文化</p> <p>第7回：天下統一と封建社会の成立 群雄の割拠と織豊政権・ヨーロッパとの出会いと桃山文化・幕藩体制の確立と外交政策</p> <p>第8回：幕政の進展と文化の普及</p>			

<p>文治政治と学問の興隆・経済の発展と町人文化の開花</p> <p>第9回：封建社会の動揺と文化の爛熟</p> <p>幕政の変遷と化政文化・幕政の衰退・新しい学問と思想</p> <p>第10回：開国と幕末の政局</p> <p>開国と幕府権威の失墜・尊王攘夷運動の展開</p> <p>第11回：明治維新と近代国家の形成</p> <p>新政治体制の確立・富国強兵と殖産興業・文明開化</p> <p>第12回：立憲政治の確立と文化の展開</p> <p>自由民権運動・憲法制定と国会開設・近代文化の展開</p> <p>第13回：近代日本とアジア</p> <p>東アジア情勢と日清戦争・日露戦争と国際的地位の確立・明治後期の文化と思想</p> <p>第14回：国際情勢の転換と日本</p> <p>第一次世界大戦前後の国内情勢・社会状況と市民文化・恐慌と大陸問題</p> <p>第15回：世界の動乱と日本</p> <p>第二次世界大戦と日本・戦後の変革と国民生活・現代の世界と日本</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>大学の日本史—教養から考える歴史へ 1～4（佐藤信 五味文彦 杉森哲也 小風秀雅 著、山川出版社）</p> <p>詳説日本史研究（佐藤信 五味文彦 高埜利彦 鳥海靖 編、山川出版社）</p> <p>詳説日本史 日本史探究（佐藤信 五味文彦 高埜利彦 鈴木淳 編、山川出版社）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（70%）および、課題（20%）と授業態度（10%）による。なお、課題は提出状況や取組内容から、授業態度は関心・意欲・積極性・主体性の観点により評価する。</p>

授業科目名： 外国史概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤久子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：国民国家の成立と経済活動のグローバル化を中心に考える近代史</p> <p>到達目標</p> <p>1) 社会科学を学ぶ上での前提となる近代史の知識を身につける。</p> <p>2) 国民国家の成立と経済のグローバル化を軸として「近代」や「近代化」の特徴を把握し、自ら説明できるようになる。</p> <p>3) 世界各地の歴史をグローバルな枠組みの中に位置づけて考察することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、現代社会の成り立ちについて理解する上でのキー概念となる「近代化」に焦点を当て、近世から近代にかけての歴史を学ぶ。授業の前半では、主に18～19世紀の「国民国家」の誕生と「国民」の形成や、産業革命がもたらした社会の急速な変化、それがヨーロッパの政治経済に与えた影響について考察する。後半では、ヨーロッパが南北アメリカ大陸やアジア・アフリカへと進出するなかで、グローバルな産業構造が出来上がって行く過程をとらえつつ、それに対する植民地の人々の抵抗・独立運動にも目配りする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 イン트로ダクション ―国民国家の誕生と地域統合</p> <p>第2回 啓蒙思想の誕生：ドイツ宗教改革</p> <p>第3回 啓蒙思想の広まり：カフェと噂と民主主義</p> <p>第4回 啓蒙思想から市民革命へ：暦、衣服、祭典</p> <p>第5回 ナポレオンの登場とメディア</p> <p>第6回 ナポレオン戦争とナショナリズム</p> <p>第7回 ドイツの統一と関税同盟</p> <p>第8回 普仏戦争とナショナリズム</p> <p>第9回 大航海時代とヨーロッパの拡大</p> <p>第10回 産業革命と都市化、工業化</p> <p>第11回 植民地統治の深化：鉄道</p> <p>第12回 技術革新と第一次世界大戦</p> <p>第13回 第一次世界大戦と植民地兵</p> <p>第14回 国際連盟と民族自決</p> <p>第15回 ナショナリズムとマイノリティ</p>			

テキスト

授業は配布レジюмеを中心に進める。

参考書・参考資料等

個別のテーマについては授業中に適宜紹介するが、本講義で取り上げる内容を網羅しているものとして以下の書籍がある。

- ・ 大学で学ぶ西洋史（近現代）（小山哲 著、ミネルヴァ書房）

学生に対する評価

期末試験 60%

リアクションペーパー 40%

授業科目名： 地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：徳安 浩明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：「世界の自然環境と社会」 目標：①世界各地の自然環境と国土について理解する。 ②自然—人間関係の視角から各地の地誌を考察する見方・考え方を習得する。 ③世界各地の生活・産業・社会について理解する。			
授業の概要 地理学の概要と地理学と地誌学の関係について紹介したあと、世界の自然環境と文化・社会について論じる。その後、自然—人間関係を踏まえつつ、各大陸・地方ごとの生活・産業・社会について検討し、その実態を把握していく。テキストを使用し、多数の写真（担当者の撮影したもの中心）や地図、図表類を提示しつつ講義を進める。			
授業計画 第1回 地理学の概要と地誌学 第2回 世界の地形環境 第3回 世界の気候環境 第4回 東アジアの自然環境と社会 第5回 中国・韓国・台湾 第6回 東南アジアの自然環境と社会 第7回 タイ・ベトナム・カンボジア・シンガポール・インドネシア・マレーシア・フィリピン 第8回 南アジアの自然環境と社会 第9回 ヒンドスタン平原の都市と産業 第10回 西アジア・北アフリカの自然環境と社会—UAE・モロッコ 第11回 ヨーロッパの自然環境と産業 第12回 北・西ヨーロッパ各国の地誌 第13回 南ヨーロッパ各国の地誌 第14回 ロシア連邦と周辺諸国の自然環境と社会 第15回 アングロアメリカの自然環境と社会 定期試験			
テキスト リアルな今がわかる日本と世界の地理（砂崎 良 著 朝日新聞社出版）			
参考書・参考資料等			

世界の今がわかる「地理」の本（井田仁康 編、三笠書房）

一度読んだら絶対に忘れない地理の教科書（山崎圭一 著、S Bクリエイティブ）

学生に対する評価

定期試験60% 平常点（関心・意欲・積極性・主体性の観点から評価）40%

授業科目名： 法学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤田寿夫 倉橋 弘 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」（中学校 社会） ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」（高等学校 公民）		
授業のテーマ及び到達目標 法の基本的仕組みや考え方を理解できるようになること。			
授業の概要 私たちの日常生活は「法」と深い関りを持っている。例えば、自動車やバイクの免許を取得したり、自動車・バイクを購入・売却したり、交通事故を起こしたときに行政処分、刑事責任、民事責任などがあること、交通事故の被害者となったときに請求できることなど、「法」の規律を受けている。この授業では、できるだけ具体的な事例を使いながら、「法」の基本的な枠組そして特有な考え方をできるだけ分かりやすく説明する。			
授業計画 第1回：公法と私法、法制史 第2回：刑法学の歴史 第3回：刑法の考え方 第4回：罪刑法定主義と刑法の解釈方法 第5回：私的自治と契約 第6回：物権 第7回：債務不履行 第8回：法律行為論 第9回：日本国憲法の全体像 包括的基本権 第10回：精神的自由権 第11回：経済的自由権 第12回：統治機構 第13回：日本国憲法と条約 国際法 第14回：行政法 第15回：地方自治法 定期試験 小テストを実施する			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 法学入門 第4版（五十嵐清 著、日本評論社） プレップ民法 第5版（米倉明 著、弘文堂） 高校の教科書で学ぶ法学入門（宮川基 著、ミネルヴァ書房）			
学生に対する評価 小テスト 前半50% 後半50%			

授業科目名： 民法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤田 寿夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」（中学校 社会） ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」（高等学校 公民）		
授業のテーマ及び到達目標 民法の基本的仕組みや考え方を理解できるようになること。			
授業の概要 この授業では、できるだけ具体的な事例を使いながら、民法の基本的な枠組み、そして特有な考え方をできるだけわかりやすく説明する。			
授業計画 第1回：民法の成立史と基本原則 第2回：一般の不法行為 第3回：特殊の不法行為 第4回：契約の種類とその履行 第5回：債権の消滅 第6回：保証債務と債務引受 第7回：不動産登記簿と物権変動 第8回：債権譲渡、契約上の地位の移転 第9回：債務不履行 第10回：損害賠償、契約解除 第11回：契約不適合責任 第12回：債権者代位権、詐害行為取消権 第13回：担保物権 第14回：法律行為論 第15回：代理、法人 定期試験を実施する			
テキスト 指定しない。			
参考書・参考資料等 民法（全）第3版（潮見佳男著 有斐閣）			
学生に対する評価 定期試験（100％）			

授業科目名： 行政法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：倉橋 弘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」（中学校 社会） ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」（高等学校 公民）		
授業のテーマ及び到達目標 行政法の基本的な知識と考え方を習得することを目標とする。			
授業の概要 私たちは、日常生活の中で行政サービスを通して国や地方公共団体と関わる機会がある。行政法は、何をどのように学ぶか難しい法分野である。授業では行政法の基本的な知識をわかりやすく解説し、さらに社会の課題（障害者の課題、高齢者の課題など）にどのように行政法が関わっているか講義する。			
授業計画 第1回:行政法の三本柱(行政組織法・行政作用法・行政救済法) 第2回:行政主体とはどのようなものか 第3回:行政機関について 第4回:法治主義について 第5回:行政の情報の管理 情報公開制度 第6回:個人情報保護法 第7回:行政処分の定義、要件、効果について 第8回:行政指導の定義、要件、効果について 第9回:行政計画、行政契約について 第10回:行政不服申立てについて 第11回:行政事件訴訟法について 第12回:国家賠償法(公権力の責任)について 第13回:国家賠償法(営造物責任)について 第14回:損失補償について 第15回:行政法取り巻く諸課題 定期試験を実施する			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 はじめての行政法(石川敏行 藤原静雄 大貫裕之 大久保規子 下井康史 著、有斐閣) 社会とつながる行政法入門(大橋洋一著、有斐閣)			
学生に対する評価 定期試験80% 授業終了後の課題20%			

授業科目名： 地方自治法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：倉橋 弘 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」（中学校 社会） ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」（高等学校 公民）		
授業のテーマ及び到達目標 地方自治法の基本的な知識と考え方を習得することで、私たちに最も身近な地方自治の仕組みについて理解することを目標とする。			
授業の概要 近年、地方自治体の組織形態や役割などについて議論がある。地方自治のあり方を規定している地方自治法も改正されてきた。この授業では、地方自治法の基本的な知識をわかりやすく伝え、住民の諸課題（空き家問題、子育て、介護等）と地方自治法の関連についても講義する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：地方自治法と憲法 第3回：地方自治法の経緯 第4回：地方公共団体の種類 市町村合併 第5回：地方自治体の住民 第6回：地方自治体の仕事、自治事務、法定受託事務 第7回：国の自治体への関与について 第8回：地方自治体の自主行政権 まちづくり 第9回：地方自治体の情報公開、個人情報保護法 第10回：地方財政の仕組み 第11回：自主立法権 憲法と条例の関係 第12回：地方自治体の組織、議会、長、監査について 第13回：住民監査請求について 第14回：住民訴訟について 第15回：地方自治法と課題（空き家問題、子育て支援） 定期試験を実施する。			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 ようこそ地方自治法（板垣勝彦 著、第一法規） 地方自治法と住民 判例と政策（白藤博行 榊原秀訓 徳田博人 本多滝夫 編、法律文化社）			
学生に対する評価 定期試験80% 授業終了後の課題20%			

授業科目名： 政治学入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岩崎 稔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」（中学校 社会） ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」（高等学校 公民）		
授業のテーマ及び到達目標 民主主義の基本要素と生成史をテーマとして取り上げ、それを手がかりとして、政治学全般に関して導入的な授業を行い、市民社会の一員として最低限必要な政治的思考や行動の前提を身に付けさせる。			
授業の概要 民主主義の危機として取りざたされている現代の諸現象を入り口として、政治的なものか他の社会的営みとどの点で差異化されるのか、また政治的な問題を扱う場合にどのような感受性や了解が必要であるのかを講義する。それを通じて、とくに民主主義の特質である「複数性」や「分権性」を、それぞれのトピックを理解するための不可欠な要素として経験させ、市民的な良識を涵養する。			
授業計画 第1回：民主主義の現在 ポピュリズムやテクノクラシーにおいて何が問題となっているか。 第2回：民主主義の源流を再考する—古代アテナイの実際はどうだったか 第3回：民主主義をめぐる「衆愚政治」批判をどうとらえるか—プラトンの哲人政治は全体主義的か 第4回：民主主義と市民革命の歴史を多元的に理解する—議会主義、人民主権、植民地主義の問題点 第5回：宗教改革と民主主義の関係を考える—神権政治と寛容の問題 第6回：エリート民主主義の系譜 シュンペーターにとって政治とはなんだったか 第7回：ロバート・ダールのポリアーキー論は何を問うたか 第8回：アメリカの公民権運動と民主主義の関係を再考する 第9回：「コミュニケーション行為の理論」と『公共性の構造転換』が民主主義にもたらすものは 第10回：熟議民主主義とは何か—日本における試みとともに 第11回：ポストデモクラシーはどこに問題を見ているか 第12回：ロトクラシーや海賊主義の試みをどう受け止めるべきか 第13回：国際人権レジームと民主主義の関係を考察する 第14回：ケアの倫理は民主主義を変えるか 第15回：ウクライナ戦争・ガザ侵攻後の「今」、民主主義の未来を再考する 定期試験			

テキスト

現代民主主義-指導者論から熟議、ポピュリズムまで（山本圭 著、中公新書）

参考書・参考資料等

民主主義とは何か（宇野重規 著、講談社）

学生に対する評価

各回の小テスト（40％）と学期末試験（60％）による

授業科目名： 政治学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：金井 隆典 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」（中学校 社会） ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」（高等学校 公民）		
授業のテーマ及び到達目標 本講義を通じて、 1. 政治、および日本の政治に関する基本的な知識を理解し、身につける。 2. 政治学の視角、方法、思考法と論理的思考力を身につけ、社会科学的視点から論理的に思考できるようにする。 3. 「いま・ここ」を生きる私たちが抱える問題に取り組み、解決するための手掛かりを得る力を養う。			
授業の概要 政治とは何か、政治の基本的な構造をなす権力・システム・倫理の諸側面、およびその政治を対象とした学問である政治学の視角と方法、性格・特徴について、私たちにとって身近な政治的な出来事や現象を取り上げながら、理解を深めていく。そうした作業を通じて、受講生には、政治を俯瞰的・多角的・立体的にとらえ、考える力を身につけてもらいたい。			
授業計画 第1回：政治学を学ぶということ 第2回：政治とは何か？ 第3回：“政治は力である”（1）－“言うことを聞かせる力”と“言うことを聞く理由” 第4回：“政治は力である”（2）－“見える力”と“見えない力” 第5回：“政治は倫理である”（1）－政治における倫理とは何か？ 第6回：“政治は倫理である”（2）－政治における責任倫理 第7回：“政治は妥協である”（1）－政治における「技術」の意味と位置 第8回：“政治は妥協である”（2）－科学技術と政治 第9回：政治と政治思想 第10回：政治における「自由」と「平等」（1）－古代ギリシアの場合 第11回：政治における「自由」と「平等」（2）－近代的個人の登場 第12回：政治における「自由」と「平等」（3）－「自由」と「平等」の現在 第13回：政治学の方法と課題（1）－政治学とは何か？ 第14回：政治学の方法と課題（2）－政治学の任務 第15回：政治と政治学			

定期試験

テキスト

教科書は特に指定しない。

授業内容に即したレジュメ・資料を適宜、配布する

参考書・参考資料等

政治学 第2版(川出良枝 谷口将紀編、東京大学出版会)

補訂版 政治学(New Liberal Arts Selection)(久米郁男 川出良枝 古城佳子 田中愛治 真淵勝著、有斐閣)

学生に対する評価

授業への取り組み－40%、定期試験の成績－60%、両者を総合して評価する。

授業科目名： 政治学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名:橋詰 悦荘 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」(中学校 社会) ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。) (高等学校 公民)		
授業のテーマ及び到達目標 自律した市民として政治に関わるうえでの、備えるべき知識と判断力を養成する。政治学の基礎を習得し、身近な政治的事象を学問的に検討し、政治のあるべき姿を考える論理的思考力を養う。			
授業の概要 日本の現代政治を中心に据えながら、その意思決定のプロセス、国際情勢との関連性についても深く考察しながら、現代政治の諸相を理解し、自らの政治行動を考える出発点とする。			
授業計画 第1回:ガイダンス 第2回:戦後の日本政治 第3回:政治参加とインターネット 第4回:団体・結社と民主政治 第5回:政党と選挙制度 第6回:議院内閣制 第7回:55年体制下の首相、21世紀の首相 第8回:国会の機能と問題点 第9回:官僚機構と政治の関係 第10回:メディアと政治 第11回:国際化の内側にある多様性と共生原理 第12回:国際政治の現場の基軸は日米関係か 第13回:政策過程の全体像 第14回:国際政治と政治決定 第15回:地方自治と担い手 定期試験			
テキスト 日本政治の第一歩(上神貴佳 三浦まり 著、有斐閣)			
参考書・参考資料等 上記テキストの各省末尾に掲載されている。日々の新聞報道。			
学生に対する評価 定期試験結果を6割。授業での発言内容を4割として評価する。			

授業科目名： 政治体制論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：金井 隆典 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」（中学校 社会） ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」（高等学校 公民）		
授業のテーマ及び到達目標 本講義を通じて、 1. 政治体制・政治システムに関する基本的知識を理解し、身につける。 2. 社会科学的思考法、論理的思考力を養い、社会科学的視点から論理的に思考できるようにする。 3. 現在の政治が直面する問題や課題に政治体制・政治システム(の再考・再構築)という視角から取り組む力を獲得する。			
授業の概要 政治体制のあり様・構造・仕組みについて、歴史的、および原理-構造的に検討・考察し、とりわけ、現在の政治体制の主潮である民主主義体制のあり様や構造、民主主義体制とそれ以外の政治体制－非民主主義体制との差異・関係について確認・理解する。それらを踏まえて、政治のあり方、政治の技術、よりよい政治を実現するための方途についての考えを深める。			
授業計画 第1回：政治と政治体制 第2回：政治体制の現在(1)－民主主義体制vs. 権威主義体制 第3回：政治体制の現在(2)－政治体制の分類とその指標 第4回：近代民主主義体制の登場(1)－主権国家の登場 第5回：近代民主主義体制の登場(2)－主権論の展開 第6回：近代民主主義体制の登場(3)－自由民主主義体制の成立 第7回：主権国家体制vs. 東アジア地域秩序体制(1)－国際秩序体制としての主権国家体制と華夷秩序 第8回：主権国家体制vs. 東アジア地域秩序体制(2)－2つの国際秩序体制の“衝突” 第9回：非民主主義体制－民主主義体制との競合・対立(1)－非民主主義体制の類型 第10回：非民主主義体制－民主主義体制との競合・対立(2)－民主主義体制と非民主主義体制の関係 第11回：非民主主義体制－民主主義体制との競合・対立(3)－非民主主義体制の現在 第12回：全体主義体制－民主主義体制への挑戦(1)－大衆民主主義の成立と民主主義体制への懐疑 第13回：全体主義体制－民主主義体制への挑戦(2)－「真の民主主義」？ 第14回：民主主義体制の現在－民主主義体制のバリエーション 第15回：政治体制をめぐる現状と課題			

定期試験

テキスト

教科書は特に指定しない。

授業内容に即したレジュメ・資料を適宜、配布する

参考書・参考資料等

国際政治史－主権国家体系のあゆみ(小川浩之 板橋拓己 青野利彦 著、有斐閣)

国際体制の展開 (世界史リブレット 54)(木畑洋一 著、山川出版社)

補訂版 政治学(New Liberal Arts Selection)(久米郁男 川出良枝 古城佳子 田中愛治 真淵勝
著、有斐閣)

学生に対する評価

授業への取り組み－40%、定期試験の成績－60%、両者を総合して評価する。

授業科目名： 社会学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岩本 一善 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」（中学校社会） ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」（高等学校公民）		
授業のテーマ及び到達目標 私たちが日々の生活を過ごしているこの現代社会における様々な問題を、社会的な知見を援用して考えることで、どのように解きほぐすことができるのか否か、担当教員と共に悩む。そして最終的には、仮に拙いものであったとしても、借り物ではない自分自身のオリジナルな結論を見出せるように努める。			
授業の概要 私たちがこの現代社会で日常生活を送る上で、否応もなく突きつけられるであろう様々な問題を、いくつかのテーマに分け、これに沿った講義を担当教員が行う。受講生諸兄姉は、その内容を鵜呑みにすることなく、自分の頭でその内容について考察する。			
授業計画 第1回：社会学の考え方 第2回：意思決定と社会的行為1 第3回：意思決定と社会的行為2 第4回：社会規範と制度 第5回：現代社会とアイデンティティ1 第6回：現代社会とアイデンティティ2 第7回：役割と演技 第8回：生物的性差と文化的性差1 第9回：生物的性差と文化的性差2 第10回：自由恋愛と結婚 第11回：近代的核家族とその変容1 第12回：近代的核家族とその変容2 第13回：逸脱行為とメディア表現 第14回：格差・階層化現象 第15回：コミュニケーションと社会 定期試験			
テキスト 社会学入門（塩原良和 竹之下弘久 編、弘文堂）			

参考書・参考資料等

社会学（新版）（長谷川公一ほか著、有斐閣）

学生に対する評価

毎回の授業に臨む態度：20%

毎回の授業に課する小ペーパー：20%

定期試験の成績：60%

※授業態度は、関心・意欲・積極性・主体性の観点から評価する。

授業科目名： 経済学基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：福留 和彦 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」（中学校 社会） ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」（高等学校 公民）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 経済学という学問の特徴と役割を理解する。とくに、①経済学はなぜ必要か、②経済学はどのような方法を用いるか、③経済学に基づいて考えることの利点は何かを説明できること。</p> <p>2. 経済学に関する上位科目を理解するための基本知識を修得すること。</p>			
授業の概要			
<p>経済学はアダム・スミスの『国富論』(1776年)を出発点と考えると、現時点で約250年の歴史がある。経済学はその名の通り経済を解明することを研究課題としている。経済は身近な存在でありながら、その姿を肉眼で観察することはできない。観察するためには道具が必要である。しかもその道具は概念的な枠組み(あるいは理論と呼ばれるもの)である。</p> <p>経済学入門では、経済学が培ってきた2つの理論、即ちミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な概念や方法論について学ぶ。ミクロ経済学の範疇では、比較優位に基づいた交易理論と、需要と供給の原理を取り上げる。マクロ経済学の範疇では、いくつかの重要なマクロ指標と、GDPの決定メカニズムの基礎を提示する。むろん、満足のいく経済分析を行うためには上位科目の学習を待たねばならない。経済学入門は、その上位科目への橋渡しを担っているが、それは必須の知識を教授する意のほか、経済学入門それ自身に上位科目への学習動機を醸成するだけの面白さがあることも意図している。</p>			
授業計画			
<p>第1回：経済学入門の入門(授業ガイダンス、経済学の成り立ち、なぜ経済学が生まれたのか?)</p> <p>第2回：マンキューの経済学十大原理(第1原理～第10原理)</p> <p>第3回：相互依存と交易(貿易)からの利益①(機会費用、生産可能性フロンティア)</p> <p>第4回：相互依存と交易(貿易)からの利益②(絶対優位、比較優位、フロンティアの変化)</p> <p>第5回：市場における需要と供給の作用①(需要曲線とそのシフト、曲線の傾きと弾力性)</p> <p>第6回：市場における需要と供給の作用②(供給曲線とそのシフト、曲線の傾きと弾力性)</p> <p>第7回：市場における需要と供給の作用③(市場均衡、価格メカニズム、3段階アプローチ)</p> <p>第8回：市場の効率性と余剰(消費者余剰、生産者余剰、パレート最適、市場の失敗)</p> <p>第9回：マクロ経済学とは何か(その歴史的背景)</p> <p>第10回：GDPを理解する①(付加価値、GDPの三面)</p> <p>第11回：GDPを理解する②(名目GDP、実質GDP、潜在GDP、GDPギャップ)</p> <p>第12回：GDPの決定理論(均衡GDP、45度線モデル)</p> <p>第13回：物価を考える(CPI、GDPデフレーター、インフレ率、フィリップス曲線)</p> <p>第14回：労働を考える(労働力、失業率、摩擦的失業、非自発的失業)</p> <p>第15回：貨幣を考える(貨幣の機能、貨幣の種類、信用創造、中央銀行)</p> <p>定期試験</p>			

テキスト
マンキュー入門経済学(第3版)(N・グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社)
参考書・参考資料等
スティグリッツ入門経済学(第4版)(ジョセフ・E・スティグリッツ著、東洋経済新報社)
学生に対する評価
小テスト(全3回、30%)、定期試験(70%)

授業科目名: ミクロ経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:林 智子 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」(中学校 社会) ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」(高等学校 公民)		
授業のテーマ及び到達目標 ミクロ経済学の学習を通じて、経済事象に対する分析手法を理解できるようになること、また、社会における経済問題に対して、自ら考え分析判断できる能力を養成することである。			
授業の概要 経済全体の基礎となる経済活動における意思決定と、それが出会う市場の機能を分析する方法を学ぶ。すなわち、1.家計は予算制約のもとで財をどのように需要するか。2. 企業はどのような資源をどれだけ用いて、何をどれだけ生産するか。3.市場では価格と取引量がどのように決定されるか。4. 市場が到達する結果は社会にとって望ましいか。 部分均衡分析の枠組みで、競争的な市場の望ましさとその限界について学習する。			
授業計画 第1回:ミクロ経済学とは 第2回:需要曲線 第3回:消費者行動と需要曲線 第4回:消費者余剰 第5回:供給曲線と利潤最大化行動、生産者余剰 第6回:余剰分析 第7回:市場とは 第8回:無差別曲線 第9回:無差別曲線と限界代替率 第10回:予算制約と消費者行動 第11回:需要の所得弾力性 第12回:独占の理論 第13回:市場の失敗 第14回:不確実性と不完全情報の世界 第15回:まとめ 定期試験			

テキスト 特に指定はしません。授業時には、授業資料等を配布する。
参考書・参考資料等 ミクロ経済学(伊藤元重 著、日本評論社)
学生に対する評価 定期試験(80%)、提出物(20%)

授業科目名: マクロ経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:河野俊明 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」(中学校 社会) ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」(高等学校 公民)		
授業のテーマ及び到達目標 マクロ経済学で用いる基礎的なワードを理解し、マクロ経済学の基本的な理論を説明できる。 マクロ経済に関するデータの収集や分析、評価ができる。 日本経済の現状を理解し、国内外の経済動向や直面する課題について説明できる。			
授業の概要 マクロ経済学とは、国全体を対象とし景気や失業、物価、為替レートなどといった経済的な事象について分析する学問である。日本経済がこれまでどのように成長・発展し、それには何が原因・作用していたのか、そして、国・政府が実施する政策や企業、消費者の行動や意思決定がマクロ経済にどのような影響を及ぼすのか、などについて学習する。 マクロ経済の動向とともに、財政政策、金融政策が及ぼす影響とそのメカニズムを理解し、現在そして今後の日本経済を読み解くための基礎的な力を身につける。 テキストに沿った講義をベースとしながら、得られた知識を現実の日本経済に適用する実習を行い、マクロ経済の理論と実際の経済との関係性を理解する。			
授業計画 第1回: イントロダクション ～マクロ経済学で学ぶこと～ 第2回: マクロ経済学と日本経済 ～重要なマクロ経済変数(1): 経済成長率、失業率、物価～ 第3回: マクロ経済学と日本経済 ～重要なマクロ経済変数(2): 株価、国際収支、為替～ 第4回: GDP(国内総生産) ～定義と意味～ 第5回: GDP(国内総生産) ～名目と実質～ 第6回: 消費と貯蓄 第7回: 企業の投資 第8回: 政府の支出 第9回: 現実のマクロ経済と実習 第10回: 財・サービス市場の均衡(1): 総需要の決定と乗数理論 第11回: 財・サービス市場の均衡(2): 経済構造と政策効果 第12回: 貨幣市場の均衡(1): 貨幣需要の理論 第13回: 貨幣市場の均衡(2): 現実の貨幣市場と金融政策 第14回: 財市場と貨幣市場の均衡(IS-LMモデル)			

第15回:IS-LMモデルの応用、マクロ経済政策との関係

定期試験

テキスト

マクロ経済学の基礎「ベーシック+」第2版(家森信善 著、中央経済社)

参考書・参考資料等

マクロ経済学—入門の「一歩前」から応用まで 第3版(平口良司 稲葉大 著、有斐閣)

学生に対する評価

授業中に実施する課題(30%)、定期試験(70%)

授業科目名: 国際経済学	教員の免許状取得のための 選択科目(中学校) 必修科目(高等学校)	単位数: 2単位	担当教員名:藤田和孝 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」(中学校 社会) ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」(高等学校 公民)		
授業のテーマ及び到達目標 基礎的な国際経済学の考え方を身に付けてもらう。変動相場制の下での貿易赤字の意味について理解し、経済ニュースに触れたとき、自分の考えを持てるようになってもらう。			
授業の概要 前半は、ミクロ経済学を基礎として貿易や国際労働移動、およびWTOを中心とする国際貿易体制などを扱う(国際貿易論)。後半は、マクロ経済学を基礎として国際投資や国際通貨制度を扱う国際金融、および国際マクロ経済政策、国際収支の見方、貿易赤字の考え方について学ぶ。			
授業計画 第1回:国際貿易の基礎－自由貿易と貿易利益－ 第2回:生産技術と貿易 第3回:生産要素の供給量と貿易－貿易と所得分配－ 第4回:政策評価の基礎－自由貿易下の利益－ 第5回:貿易政策の経済効果－関税・輸入数量制限・補助金の経済効果－ 第6回:国際貿易体制①－WTOの基本原則－ 第7回:国際貿易体制②－ダンピング・補助金相殺措置・セーフガード－ 第8回:貿易・投資の自由化－地域貿易協定による貿易自由化－ 第9回:国際収支とGDP－国際収支統計－ 第10回:為替レートと経常収支 第11回:外国為替市場と為替レート 第12回:為替レートの決定－物価水準と金利と為替レート－ 第13回:GDPの決定－輸出の経済効果－ 第14回:GDPと利子率の決定 第15回:変動相場制・固定相場制でのマクロ経済政策 定期試験			
テキスト 阿部顕三・濱多康弘『グラフィック国際経済学』新世社、2024			
参考書・参考資料等 マンキュー マクロ経済学 I (第5版)入門編(グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社1)			
学生に対する評価 定期試験(100%)			

授業科目名: 哲学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:岩崎 稔 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校社会及び高等学校公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 (中学校社会) ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 (高等学校公民)		
授業のテーマ及び到達目標 哲学的な思考の基本要素と哲学史の基礎知識をテーマとしてとりあげる。この授業の到達目標は、哲学史の問題を追体験的に思考させることで、日常生活のなかにも存在する倫理的、哲学的な問題を自分自身で考える力を身に付けさせることに設定されている。			
授業の概要 第一回では、多様な素材を用いて哲学する営みがどういうことであるのかを実体験させ、第二回以後は、西洋哲学における代表的な哲学者の思考について概観する。ギリシアの思想、ヘブライの思想をギリシア悲劇や聖書を活用しつつ理解させ、さらにヨーロッパ哲学の歩みに進む。知識としての哲学史を抑えつつも、それぞれの哲学者や思想家たちが何に取り組み、何について考えていたのかを身の丈に合わせて学ばせる。			
授業計画 第1回：哲学するとはどういうことか 第2回：古代ギリシアの思想を生み出したギリシア人とはどういうひとびとだったか 第3回：ギリシア悲劇を通じて考える古代ギリシアの思想、ソクラテス以前の哲学者たち 第4回：ソクラテスの哲学からプラトン哲学まで—なぜイデアという観念は生まれたか 第5回：プラトンのパターンとアリストテレスのパターンを対比してみよう 第6回：旧約聖書の世界に入ってみよう 第7回：イエスという男について想像してみよう 第8回：中世のキリスト教神学の世界とそのゆらぎ—死を思うこと 第9回：宗教改革の思想とわたしたち近代人とのつながりはどこにあるか 第10回：ルネッサンスの思想と科学革命はどう関係しているか 第11回：透明な理性を信頼する—デカルトの哲学 第12回：デカルト的な懐疑を現代において引き継ぐとすれば—コギトの応用問題 第13回：理性的推論かそれとも経験的知覚か—カント哲学は何を考えたのか 第14回：社会哲学の系譜をたどってみる 第15回：現代哲学のなかで問題になっていること 定期試験			

テキスト

ヨーロッパ思想入門（岩田靖夫 著、岩波書店）

参考書・参考資料等

西洋哲学史（再訂版）（岩崎武雄 著、有斐閣）

学生に対する評価

毎回の小テスト（40％）と学期末試験（60％）で評価する

授業科目名： 倫理学入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：上島 洋一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」（中学校社会） ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」（高等学校公民）		
授業のテーマ及び到達目標 〈授業のテーマ〉 本授業では倫理学の代表的理論（社会契約論、共感理論、功利主義）、正義概念に関連する諸議論（リバタリアニズム、共同体主義）、討議倫理およびケア倫理の概説を理解し、各テーマについて学生自身が自分のこれまでの見聞や経験を踏まえて考察し、そして、他の学生と一緒に議論を進める力を養います。			
〈到達目標〉 ①倫理学の諸概念を理解できる ②学んだ知識をこれまでの自分の見聞や経験との関連を通して考察できる ③自らの考察を表現し、他者の考察を聞き取り、共に議論することができる			
授業の概要 基本的に講義形式で行いますが、授業の内容を学生がよりよく理解するために少人数グループに分かれてのワークショップを取り入れます。また、授業内容についての自分の考えを文章化したものを授業後に提出し、次回授業時に教員が応答することもあります。			
授業計画 第1回：オリエンテーション — 倫理学は学問か？ 第2回：自分のために① 利益 第3回：自分のために② 社会契約論 第4回：他者のために① 共感 第5回：他者のために② 人間とそれ以外 第6回：社会のために① 功利主義 第7回：社会のために② 幸福計算 第8回：義務のために 第9回：倫理の目的 第10回：正義① 公正 第11回：正義② リバタリアニズム 第12回：正義③ 共同体主義			

第13回：討議倫理

第14回：ケア倫理

第15回：これからの社会と倫理

テキスト

特にありません。

参考書・参考資料等

適宜、授業内にて示す。

学生に対する評価

第一回レポート（40％）到達目標①②③に対応

第二回レポート（60％）到達目標①②③に対応

授業科目名： 宗教と社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤久子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」（中学校社会） ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」（高等学校公民）		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：教科書を通じて学ぶ世界の宗教 到達目標： 1) 世界各国の教科書や教授法に関する知識を通じて、それぞれの宗教文化について学び、その特徴について説明できるようになる。 2) 世界各国の教科書や教授法について具体的な知識を得ることで、学校現場でさまざまな宗教的背景を持った生徒たちにどのように対応すべきかについて、自分なりの展望を持つ。 3) 学校教育を通じて、各国の政教関係について理解し、特徴について説明できるようになる。			
授業の概要 グローバル化の進む現代社会において、学校教育の現場も宗教・国籍など、さまざまな文化的・社会的バックグラウンドを持つ生徒たちがともに学ぶ環境が広がっている。授業では、各国の教育（教科書、教授法）を手掛かりに、世界の宗教文化を学び、また教育現場で起きている（今後、起こり得る）宗教にまつわる課題について学ぶ。 受講者は事前にテキストの各章を読んだ上で出席することが求められる。授業の冒頭に、感想や質問事項について話し合い、その後、担当教員が解説や、より発展的な内容についての講義を行う。各自、最終回でのディスカッションに向けて、自分の考え、展望をまとめて行ってほしい。			
授業計画 第1回：イントロダクション——グローバル化と世俗化の中の宗教 第2回：グローバル化①宗教と食文化、食の戒律 第3回：グローバル化②宗教と衣服、ジェンダー 第4回：世俗化①宗教と医療、いのち 第5回：世俗化②宗教と葬儀、埋葬 第6回：宗教と教育、教科書（予習課題：教科書「はじめに」） 第7回：アメリカ——移民の国の宗教教育（予習課題：教科書1章） 第8回：イギリス——多文化主義の教室（予習課題：教科書2章） 第9回：フランス——ライシテの国の宗教（予習課題：教科書3章） 第10回：トルコ——イスラム教と世俗主義（予習課題：教科書5章）			

第11回：タイ——東アジアとは異なる仏教文化（予習課題：教科書6章）

第12回：インドネシア——東南アジアのイスラム教育（予習課題：教科書7章）

第13回：フィリピン——アジアのキリスト教文化（予習課題：教科書8章）

第14回：韓国——儒教と伝統（予習課題：教科書9章）

第15回：ディスカッション：多様な子どもたちと向き合うために

定期試験

テキスト

世界の教科書でよむ〈宗教〉（藤原聖子 著、ちくまプリマー新書）

参考書・参考資料等

よくわかる宗教学（櫻井義秀 平藤喜久子 編著、ミネルヴァ書房）

ライシテから読む現代フランス（伊達聖伸 著、岩波新書）

ヴェール論争—リベラリズムの試練（クリスチャン・ヨブケ 著、法政大学出版局）

学生に対する評価

定期試験60%

授業への貢献（テキストについての質問・意見、ディスカッションでの発言）40%

授業科目名： 中等教科教育法（社会）Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：秋岡祥介 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校社会科（地理・歴史）の学習目標と内容を理解したうえで、実際に授業を行う際の基本的技能（以下に示す）を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習指導要領について理解し説明ができるようになる。 2) 教材研究を行ったうえで、授業計画（特に単元構想）を立案し、学習指導案を作成できるようになる。 3) 学習指導案に沿って、授業を行うことができるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>中学校社会科の学習目標及び内容を理解したうえで、授業を行う際に必要な基礎的技能を身に付けられるようにする。授業は、分野としては、地理的分野と歴史的分野を扱う。子ども理解や教材開発・授業方法に関しては、内容と関連させながら講義を構成していく。学習目標及び内容については新学習指導要領への移行の趣旨、目的、内容の変更を理解できるようにする。授業実践に関しては、教材研究を十分おこなったうえで、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（これまで受けてきた社会科授業を振り返る。授業の進め方、社会科の目標）</p> <p>第2回：新学習指導要領の「主体的で対話的な深い学び」を進めるために必要なことは何かを考える。小学校と中学校の学びの接続の視点から授業を捉える。</p> <p>第3回：教材研究と授業：教材論（教材にはどんなものがあるのだろうか。）</p> <p>第4回：すぐれた実践（地理的分野）に学ぶ。著名な実践家の授業の紹介と分析。</p> <p>第5回：地理的分野の授業づくり基礎・基本① …1時間の授業のめあてや主発問を考える。</p> <p>第6回：地理的分野の授業づくり基礎・基本② …学習指導案を作成する。</p> <p>第7回：すぐれた実践（歴史的分野）に学ぶ。著名な実践家の授業の紹介と分析</p> <p>第8回：歴史的分野の授業づくり基礎・基本① …日本史の論点になっていることを調べる。</p> <p>第9回：歴史的分野の授業づくり基礎・基本② …エンパシーという考え方を授業の中でどう生かすか考える。</p> <p>第10回：地理・歴史の授業について単元を通して設計する。</p> <p>第11回：情報機器の効果的な活用（デジタル教科書、地図帳、タブレット等）について理解する。</p> <p>第12回：グループでの模擬授業① …「主体的で対話的な深い学び」を軸に授業を検討しコメントを書く。</p> <p>第13回：グループでの模擬授業② …子どもの学びを視点に授業を分析しコメントを書く。</p>			

第14回：グループでの模擬授業③ …どのような授業検討会が授業力を伸ばすのかを考える。

第15回：まとめ

定期試験は行わない。

テキスト

最新の『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 社会編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）

参考書・参考資料等

授業に適宜指示する。

学生に対する評価

各課題レポート・小テスト（30%）、指導案（20%）、ワークシート（20%）、模擬授業（20%）、グループワークの貢献度（10%）

授業科目名： 中等教科教育法（社会）Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：秋岡祥介 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校社会科（公民）の学習目標と内容を理解したうえで、実際に授業を行う際の基本的技能（以下に示す）を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習指導要領について理解し説明ができるようになる。 2) 教材研究を行ったうえで、授業計画（特に単元構想）を立案し、学習指導案を作成できるようになる。 3) 学習指導案に沿って、授業を行うことができるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>中学校社会科の学習目標及び内容を理解したうえで、授業を行う際に必要な基礎的スキルを身に付けられるようにする。授業は、分野としては、公民分野を扱う。子ども理解や教材開発・授業方法に関しては、内容と関連させながら講義を構成していく。学習目標及び内容については新学習指導要領への移行の趣旨、目的、内容の変更を理解できるようにする。授業実践に関しては、教材研究を十分おこなったうえで、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（これまで受けてきた社会科授業を振り返る。授業の進め方、社会科の目標）</p> <p>第2回：新学習指導要領の「主体的で対話的な深い学び」を進めるために必要なことは何かを考える。小学校と中学校の学びの接続の視点から授業を捉える。</p> <p>第3回：教材研究と授業：教材論（教材にはどんなものがあるのだろうか。）</p> <p>第4回：すぐれた実践（政治と暮らし内容）に学ぶ。著名な実践家の授業の紹介と分析。</p> <p>第5回：政治と暮らし内容の授業づくり基礎・基本① …1時間の授業のめあてや主発問を考える。</p> <p>第6回：政治と暮らし内容の授業づくり基礎・基本② …学習指導案を作成する。</p> <p>第7回：すぐれた実践（経済と暮らし内容）に学ぶ。著名な実践家の授業の紹介と分析</p> <p>第8回：経済と暮らし内容の授業づくり基礎・基本① …経済の論点になっていることを調べる。</p> <p>第9回：経済と暮らし内容の授業づくり基礎・基本②…エンパシーという考え方を授業の中でどう生かすか考える。</p> <p>第10回：中学校社会科（公民）の授業について単元を通して設計する。</p> <p>第11回：情報機器の効果的な活用（デジタル教科書、タブレット等）について理解する。</p> <p>第12回：グループでの模擬授業① …「主体的で対話的な深い学び」を軸に授業を検討しコメントを書く。</p> <p>第13回：グループでの模擬授業② …子どもの学びを視点に授業を分析しコメントを書く。</p>			

第14回：グループでの模擬授業③ …どのような授業検討会が授業力を伸ばすのかを考える。

第15回：まとめ

定期試験は行わない。

テキスト

最新の『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 社会編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省）

参考書・参考資料等

授業に適宜指示する。

学生に対する評価

各課題レポート・小テスト（30%）、指導案（20%）、ワークシート（20%）、模擬授業（20%）、グループワークの貢献度（10%）

授業科目名： 中等教科教育法（公民） I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：秋岡 祥介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 文部科学省高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説公民編の改定の経緯と基本方針、改定の趣旨と要点、目標、科目編成などの特質と新しく求められる授業づくりを考察し、理解すること。</p> <p>(2) 公民諸科目の「公共」、「倫理」、「政治・経済」それぞれの性格と目標、内容、指導計画の作成と指導上の配慮事項、観点別評価について理解する。</p> <p>(3) 公民科(社会科)教科教育理論と教科教育内容論、アクティブラーニング(ICT教育・協働の学び・ロールプレイ・ゲーム理論等)の教育方法論の三位一体型の授業構成を理解する。</p> <p>(4) 学習指導案の書き方を理解し、「公共」、「倫理」、「政治・経済」から実際に1単元・1時間の学習指導案の授業設計を作成する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>文部科学省高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説公民編に基づいて高等学校公民科の設置理由や理念を理解し、教員としての資質を獲得し、学習指導案の授業設計ができるようになることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公民科教育の改定の趣旨、教科論、歴史、目標論、内容構成論、授業論、評価論、今日の課題などについて、文部科学省高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説公民編に基づいて、学生が概観する。 2. 高等学校公民科の学習指導要領に基づいて、「公共」、「倫理」、「政治・経済」の1単元の学習指導案の授業設計をし、作成する。授業づくりをするには社会諸科学の研究成果に基づいた教材研究を充分して、自己の教科教育理論を確立する。また、ICT教育、協働の学び、ロールプレイ、VTRゲーム理論などのアクティブラーニング等についても考察し、学習指導案の授業設計に取り入れて活用する。 3. 評価については、保護者・生徒にとっては最も重要視しているので高等学校の教育現場では日々時間をかけて正確に評価し、神経を使うところである。観点別評価については高等学校現場で実際に活用されている評価方法と文部科学省や研究者の評価論を考察し、評価方法を確立する。 			
授業計画			

第1回：オリエンテーション

～自己紹介・中等教科教育法（公民）Iを学ぶにあたり・授業の概要説明～

第2回：公民科教育の改定の趣旨と教科論

第3回：公民科教育の歴史と目標論

第4回：公民科教育の内容構成論

第5回：必修科目の「公共」の内容と授業 (1)「公共」の内容構成 (2)「公共」の指導計画

第6回：必修科目の「公共」の内容と授業 (3)「公共」教育の諸問題・論争点

第7回：選択科目の「倫理」の内容と授業 (1)「倫理」の内容構成 (2)「倫理」の指導計画

第8回：選択科目の「倫理」の内容と授業 (3)「倫理」教育の諸問題・論争点

第9回：選択科目の「政治・経済」の内容と授業 (1)「政治・経済」の内容構成

(2)「政治・経済」の指導計画

第10回：選択科目の「政治・経済」の内容と授業 (3)「政治・経済」教育の諸問題・論争点

第11回：『ICT教育』、『協働の学び』、『ロールプレイ』、『ゲーム理論』等の教育方法論について考察する。

第12回：学習指導案の様式の提示と内容・作成方法の説明

第13回：公民科教育の評価論及び高等学校の教育現場の観点別評価論

第14回：公民科学習指導案の授業設計を作成する。

第15回：公民科学習指導案の授業設計を作成する。

定期試験は行わない。

テキスト

授業内容にしたがい、適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説公民編（平成30年7月告示 文部科学省）

学生に対する評価

学習指導案60%、レポート20%、平常点（関心・意欲・積極性・主体性の観点から評価）20%

授業科目名： 中等教科教育法（公民）Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：秋岡 祥介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 公民諸科目の「公共」、「倫理」、「政治・経済」の先行授業実践事例を考察・分析し、学生たちが間主観的に吟味する。</p> <p>(2) 公民科の新任教員と中堅教員の授業実践ビデオを考察・分析し、学生たちが間主観的に吟味する。</p> <p>(3) 学生全員が公民の「公共」、「倫理」、「政治・経済」のいずれかの学習指導案を作成し、「主体的・対話的で深い学び」の課題解決的なアクティブ・ラーニングが不可欠である学習指導案の授業設計を作成し、模擬授業ができるようになる。</p> <p>(4) 模擬授業について、学生各自が学習指導案に基づいて振り返り、自己採点し学生たちが相互に意見交換し、評価する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>公民諸科目の内容構成について、学生が概観できるようになる。その内容は、必修科目の「公共」では、まず私たちの生きる社会を公共空間と捉え、一人一人が公共空間をつくる主体として、現代社会の諸課題の解決に向けて参画することの意義や人間としての在り方生き方、公共空間の基本的原理を学び、他者と協働しつつ持続可能な社会づくりについて考察する。選択科目の「倫理」では人間としてどう生きるべきか、自己の課題や現代社会の課題と関連付けて思索する。「政治・経済」では社会はどうあるべきか、政治や経済の視点から日本と国際社会を対象に探究する。中等教科教育法(公民)Ⅰで学習したことを含めて教科原理、歴史、目標、内容編成、授業構成、評価について原理・理論を整理し、授業実践を理解する。学生がアクティブ・ラーニングを組み入れた授業分析、教材研究、学習指導案の授業設計を作成する。</p> <p>「生きる力」をより具体化し、何を理解しているか、何ができるか「知識・技能」の習得、理解していること・できることをどう使うか「思考力・判断力・表現力等」の育成、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか「学びに向かう力・人間性等」の涵養、つまり「主体的に学習に取り組む態度」を育成する模擬授業を実践します。そして、各自が自分の学習指導案と模擬授業を振り返り、学生が相互に意見交換してそれぞれの模擬授業を吟味し、考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション～中等教科教育法（公民）Ⅱを学ぶにあたり・授業の概要説明～</p>			

第2回：公共の授業実践事例と考察・分析(1)
第3回：公共の授業実践事例と考察・分析(2)
第4回：倫理の授業実践事例と考察・分析(1)
第5回：倫理の授業実践事例と考察・分析(2)
第6回：政治・経済の授業実践事例と考察・分析(1)
第7回：政治・経済の授業実践事例と考察・分析(2)
第8回：公民科の新任教員の授業実践ビデオを相互に考察・分析(1)
第9回：公民科の中堅教員の授業実践ビデオを相互に考察・分析(2)
第10回：公民科学習指導案の授業設計を作成(1)
第11回：公民科学習指導案の授業設計を作成(2)
第12回：模擬授業・振り返り(1)～公共～
第13回：模擬授業・振り返り(2)～倫理～
第14回：模擬授業・振り返り(3)～政治・経済～
第15回：模擬授業・振り返り(4)～政治・経済～・まとめ
定期試験は行わない

テキスト

授業内容にしたがい、適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説公民編（平成30年7月告示 文部科学省）

文部科学省HPを見ること

学生に対する評価

学習指導案40%、 模擬授業40%、 レポート20%

授業科目名： 心理学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中山 俊昭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」（高等学校公民）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>心理学は概念的で形の見えない学問であるように感じるかもしれないが、心理学の研究対象を人間行動の源を発見するプロセスだと考えれば、その正体はじつに身近で魅力的な学問であるといえる。この授業では、人間行動について科学的・客観的に理解するための基礎知識の習得をめざし、日常生活の様々な場面における行動の規定因や人間の内部構造について考えることができるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>講義形式を主とし、心理学の基本的な理論と実践について学ぶ。知覚・認知・学習・発達・人格・臨床・社会などの領域を中心に今日的なテーマも取り上げる。さらに、脳の機能にもふれる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：心理学の歴史と種類，研究方法。 第2回：人間の発達(1)「ピアジェ、エリクソンを中心に」 第3回：人間の発達(2) 第4回：感覚と知覚(1)「ミニ実験を体験する」 第5回：感覚と知覚(2)「知覚について考える」 第6回：認知について 第7回：学習理論について 第8回：記憶について 第9回：感情、動機づけ 第10回：パーソナリティについて 第11回：心理検査の種類と構造について 第12回：適応、臨床心理学 第13回：対人関係「対人コミュニケーションについて考える」 第14回：社会心理学分野について 第15回：心理学の社会的役割</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>エッセンシャルズ心理学 心理学的素養の学び(二宮克美 山本ちか 太幡直也 松岡弥玲 菅さやか 著、福村出版)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

特になし

学生に対する評価

1. 授業の振り返りミニレポート毎時間、授業内の確認テスト、定期試験（80%）
 2. その他、授業態度、発表等(20%)
1. 2で総合評価する。

授業科目名： ビジネス法務基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤田 寿夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」（中学校 社会） ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」（高等学校 公民）		
授業のテーマ及び到達目標 ビジネス法の基本的仕組みや考え方を理解できるようになること。			
授業の概要 この授業では、できるだけ具体的な事例を使いながら、ビジネス法の基本的な枠組み、そして特有な考え方をできるだけわかりやすく説明する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ビジネス法の成立史と基本原則</p> <p>第2回：不法行為</p> <p>第3回：契約の種類とその履行</p> <p>第4回：債権の消滅</p> <p>第5回：保証債務と債務引受</p> <p>第6回：物権変動論</p> <p>第7回：債権譲渡、契約上の地位の移転</p> <p>第8回：債務不履行</p> <p>第9回：損害賠償、契約解除</p> <p>第10回：契約不適合責任</p> <p>第11回：債権者代位権、詐害行為取消権</p> <p>第12回：担保物権</p> <p>第13回：法律行為論</p> <p>第14回：代理、法人</p> <p>第15回：国際法の考え方</p> <p>定期試験を実施する</p>			
テキスト 指定しない。			
参考書・参考資料等 民法（全）第3版（潮見佳男 著、有斐閣）			
学生に対する評価 定期試験（100％）			

授業科目名： ビジネス国際法務	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤田 寿夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」（中学校 社会） ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」（高等学校 公民）		
授業のテーマ及び到達目標 国際ビジネス法の基本的仕組みや考え方を理解できるようになること。			
授業の概要 この授業では、できるだけ具体的な事例を使いながら、国際ビジネス法の基本的な枠組み、そして特有な考え方をできるだけわかりやすく説明する。			
授業計画 第1回：国際取引法とは 第2回：国際私法の考え方 第3回：国連物品売買条約 第4回：契約締結前のレター・オブ・インテント 第5回：契約の成立 第6回：売主の義務 第7回：危険移転 第8回：買主の義務 第9回：不履行の免責と事情変更 第10回：将来の履行の不安に対する救済方法 第11回：契約違反に対する救済方法 第12回：契約解除 第13回：損害賠償 第14回：損害賠償の方法 第15回：国際取引紛争の裁判・仲裁 定期試験を実施する			
テキスト 指定しない。			
参考書・参考資料等 国際取引法・第5版（佐野寛 著、有斐閣）			
学生に対する評価 定期試験（100％）			

授業科目名： 欧米経済論	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校） 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：橋本寿哉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」（中学校 社会） ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」（高等学校 公民）		
授業のテーマ及び到達目標 ヨーロッパ及びアメリカの経済の成り立ち、しくみ、現状等を学ぶことを通じて、今日の世界の経済情勢や問題点を理解し、これからの世界経済が展望できるようになることを目的とする。			
授業の概要 世界に先駆けて今日の資本主義経済を成立させ、近代の世界経済を先導してきたヨーロッパ及びアメリカの経済の成り立ちを歴史的に理解するとともに、その特徴や問題点も知り、その行方を展望する。特に、今日、問題や限界が指摘される資本主義が、どのように生まれ発展し、今後どのように変わっていくかを、日本経済の現状や世界経済の動向とも併せて検討したい。			
授業計画 第1回: イントロダクション: 欧米経済を学ぶ意味 第2回: 欧米経済概観: 世界経済の現状と欧米経済 第3回: ヨーロッパ経済の成り立ち(1) 前近代ヨーロッパの経済 第4回: ヨーロッパ経済の成り立ち(2) 産業革命と近代化、経済思想の発展 第5回: ヨーロッパ経済の成り立ち(3) 第二次大戦後の世界経済とヨーロッパ統合 第6回: アメリカ経済の成り立ち(1) アメリカ合衆国の建国と経済発展 第7回: アメリカ経済の成り立ち(2) アメリカ型経済システムの誕生 第8回: アメリカ経済の成り立ち(3) アメリカによる世界経済支配と展望 第9回: 欧米の金融システム(1) ドル体制の変遷と現状 第10回: 欧米の金融システム(2) ユーロ体制の成立過程と現状 第11回: 欧米経済と資本主義の諸問題 第12回: 資本主義の多様性 第13回: 企業活動から見る欧米経済(1) GAFAMとアメリカ経済のダイナミズム 第14回: 企業活動から見る欧米経済(2) ヨーロッパ主要産業の企業活動 第15回: 企業活動から見る欧米経済(3) アメリカ企業とヨーロッパ企業の異同 定期試験			
テキスト 特に指定しない(教員作成のプリントを配布)			
参考書・参考資料等 入門アメリカ経済Q&A100(坂出健 秋元英一 加藤一誠 編著、中央経済社) ヨーロッパ経済の基礎知識2022(川野裕司 著、文真堂)			
学生に対する評価 受講態度(30%)、課題についてのプレゼンテーション(35%)、定期試験(35%)			

授業科目名： アジア経済論	教員の免許状取得のための 選択科目(中学校) 必修科目(高等学校)	単位数： 2単位	担当教員名:羽森茂之 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」(中学校 社会) ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」(高等学校 公民)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>アジア経済論は、アジア諸国の経済に焦点を当てた学問であり、アジア地域の経済的な特徴や課題、発展のメカニズム、国際的な連携などを学ぶ学問です。アジアには異なる国や地域があり、それぞれ異なる経済体制や発展段階にあるため、アジア経済論は多岐にわたるトピックを含んでいます。この講義では、アジア地域の独自の特性や課題に焦点を当てながら、学生の皆さんがアジア経済に関する基本的な理解をすすめ、それを現代社会の様々な側面に応用できるようになることを主要なテーマとします。</p> <p>到達目標は次の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) アジア諸国の経済体制、成長要因、産業構造などについて理解すること (2) アジア経済が国際的な経済システムとどのように結びついているかを理解し、アジア諸国間および世界との相互依存関係について説明できるようになること (3) アジア諸国の経済に関する課題や挑戦に対して、独自の視点から解決策を提案できる能力を向上させること 			
授業の概要			
<p>この授業では、アジア経済論の基本的な考え方を学びます。アジア経済論は実践的な学問であり、その考え方を身に着けることにより、アジア地域の理解を深めることができます。特に、アジア諸国の経済政策、貿易、投資、産業構造、経済成長の要因等について学び、その知識を現実の経済状況に応用するスキルを身につけます。まず、「なぜアジア経済論を学ぶのか？」というテーマでから始め、学生の皆さんに対してアジア経済論を学ぶ意義について説明します。その後、(1)アジア経済の新局面、(2)越境するアジア、(3)躍動するアジア、(4)貨岐路に立つアジア、について順に学んでいきます。また、テレビや新聞等で報道されたアジア経済関連のニュースについて解説・議論を行い、授業と現実の経済との橋渡しを行う予定です。この授業を通じて、アジア経済に関する理解を深め、アジアに関する現実の経済問題に主体的に考える習慣を身に付けてください。</p>			
授業計画			
第1回:なぜアジア経済論を学ぶのか?			
第2回:アジア経済の新局面(1)変貌するアジア			
第3回:アジア経済の新局面(2)アジア化するアジア			

第4回:アジア経済の新局面(3)中国が変えるアジア
第5回:越境するアジア(1)生産するアジア
第6回:越境するアジア(2)資本がめぐるアジア
第7回:越境するアジア(3)移動するアジア
第8回:躍動するアジア(1)革新するアジア
第9回:躍動するアジア(2)都市化するアジア
第10回:躍動するアジア(3)インフォーマル化するアジア
第11回:岐路に立つアジア(1)老いていくアジア
第12回:岐路に立つアジア(2)不平等化するアジア
第13回:岐路に立つアジア(3)環境問題に向き合うアジア
第14回:岐路に立つアジア(4)分かち合うアジア
第15回:まとめと総復習
定期試験

テキスト

現代アジア経済論(遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太 著、有斐閣)

参考書・参考資料等

マンキュー入門経済学(第3版)(マンキュー著、東洋経済新報社)

学生に対する評価

期末試験(50%)・小テスト(30%)・レポート(20%)

授業科目名: 情報科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:前田陽一郎 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会(職業に関する内容を含む。) ・情報倫理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業の到達目標を以下のとおりとする。</p> <p>(1) 計算機の基本的なハードウェア構成とソフトウェア構成について理解を深める。</p> <p>(2) 情報処理に関して、2進数表現と論理回路などの基礎理論を正しく把握する。</p> <p>(3) 簡単なプログラミング基礎知識およびネットワーク関連知識について習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講では計算機のハードウェアおよびソフトウェアの基礎を理解することを目的とする。情報の表現・論理回路などの基礎理論から、計算機の基本構成・周辺回路などのハードウェア、機械語・OS・プログラミングの基礎などのソフトウェア、ネットワーク・マルチメディアに至るまで計算機の概要について述べる。デジタル回路の基礎的理解、CPU・記憶装置・周辺機器における基本動作理解、初歩的プログラミングの習得を目標とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:情報科学とコンピュータ:コンピュータの歴史、社会の中のコンピュータ</p> <p>第2回:情報の表現(1):アナログとデジタル、位取り記法、基数変換</p> <p>第3回:情報の表現(2):文字データ、画像データ、情報量、符号化</p> <p>第4回:論理代数:命題と論理、論理関数、論理式、カルノー図</p> <p>第5回:論理回路:組み合わせ回路、順序回路、フリップフロップ</p> <p>第6回:ハードウェア(1):コンピュータの構成要素、入出力装置、CPU、メモリ</p> <p>第7回:ハードウェア(2):機械語、CASL II、OS、仮想記憶</p> <p>第8回:プログラミング(1):アルゴリズム、データ構造</p> <p>第9回:プログラミング(2):代表的なアルゴリズム、探索、ソート</p> <p>第10回:プログラミング(3):プログラムの基本構成要素、プログラミング言語</p> <p>第11回:情報ネットワーク(1):LAN、イーサネット、無線LAN、インターネット</p> <p>第12回:情報ネットワーク(2):IPアドレス、WEBサービス、電子メール</p> <p>第13回:情報セキュリティ:リスクマネジメント、暗号化技術、情報倫理</p> <p>第14回:情報と社会:サイバー・フィジカル、ソーシャル・ビッグデータ</p> <p>第15回:まとめ:授業のまとめと復習</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>教養のコンピュータサイエンス 情報科学入門(第3版)(小舘香椎子 他共著、丸善出版)</p>			

参考書・参考資料等

補足のための配布資料あり

学生に対する評価

定期試験(筆記) 60%

平常点評価(小テスト、課題レポート含む) 40%

授業科目名： 情報社会論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：名倉賢 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会（職業に関する内容を含む。）・ 情報倫理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術と社会の歴史的な変遷を踏まえつつ、ドイツのインダストリー4.0を事例として取り上げ、特に近年の情報技術がどのように社会発展に影響を与えるか考察する。 ・ 情報社会の基本的な概念や理論を理解し、今後の情報社会について自ら議論できるスキルを身に着ける。 ・ 情報と職業についての関わり、情報に関する職業人としての在り方等を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は情報技術が社会に与える影響を探求する旅です。まず、社会と技術の歴史、変遷に焦点を当て、農業社会から現代の情報社会への進化に技術がどのような役割を果たしたかを考察する。次に、ドイツのインダストリー4.0を事例に選び、ビッグデータ、人工知能およびIoTなどの情報技術の進化がもたらす新しい社会構造に迫りたい。また、各回において、情報化社会の進展と職業、職業倫理を含む職業観と勤労観などにも理解を深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに</p> <p>第2回：農業社会、工業社会から情報社会へ</p> <p>第3回：技術の進化と社会の変化</p> <p>第4回：インダストリー4.0とは何か</p> <p>第5回：ドイツのインダストリー4.0事例研究</p> <p>第6回：ビッグデータの役割と課題</p> <p>第7回：人工知能と社会変革</p> <p>第8回：インターネット・オブ・シングス (IoT) の展望</p> <p>第9回：デジタル経済と新しいビジネスモデル</p> <p>第10回：イノベーションと社会変革</p> <p>第11回：未来の技術と社会のシナリオ</p> <p>第12回：イノベーションと社会と個人</p> <p>第13回：グローバルな技術トレンド</p> <p>第14回：情報技術による社会課題解決への取り組み</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

インダストリーX.0 (エリック・シェイファー著、日経BP)

参考書・参考資料等

データ・ドリブン・エコノミー デジタルがすべての企業・産業・社会を変革する (森川 博之 著、ダイヤモンド社)

日本版インダストリー4.0の教科書 IoT時代のモノづくり戦略 (山田太郎 著、日経BP)

Society(ソサエティ) 5.0 人間中心の超スマート社会(日立東大ラボ、日本経済新聞出版)

学生に対する評価

試験 (70%) : 期末テストによる評価

平常点 (30%) : 提出物など学習プロセスに対する評価

授業科目名： 情報政策論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：名倉賢 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会（職業に関する内容を含む。）・ 情報倫理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データサイエンスと政策論の交差点であるEvidence-Based Policy Making（EBPM）を中心テーマとする。 ・ EBPMの基本手法を理解し、成功事例と失敗事例を学び、政策形成におけるデータサイエンスの役割を把握する。 ・ 政策形成におけるデータの重要性を認識し、データ駆動型政策の可能性を探求する。 ・ グループプロジェクトを通じて実践的なプレゼンテーションスキルを磨く。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義はデータサイエンスが政策論に与える影響を探求するEBPMをテーマとする。EBPMの基本原則から最新の事例まで説明する。学生はデータサイエンスの基本的概念から出発し、実践的なグループワークを通じてEBPMを体験する。講義の最終段階では、EBPMの進化と将来の方向性についても論ずる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに</p> <p>第2回：EBPMの基本理念</p> <p>第3回：データサイエンスと政策形成</p> <p>第4回：政策形成におけるオープンデータ</p> <p>第5回：データ倫理とEBPM</p> <p>第6回：グループワークの立案と進捗報告</p> <p>第7回：グループワークの発表とディスカッション</p> <p>第8回：EBPMの将来と課題</p> <p>第9回：EBPMのケーススタディ</p> <p>第10回：データ駆動型政策立案</p> <p>第11回：データによる政策評価</p> <p>第12回：データコミュニケーションとデータセキュリティ</p> <p>第13回. グループワークの最終発表とディスカッション</p> <p>第14回：政策論とデータサイエンスの融合</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

ゼロからわかる！ 公務員のためのデータ分析（岡 祐輔 著、学陽書房）

参考書・参考資料等

政策リサーチ入門 増補版：仮説検証による問題解決の技法（伊藤 修一郎、東京大学出版会）

地域データ分析入門 すぐに役立つEBPM実践ガイドブック（林 宜嗣 林 亮輔 著、日本評論社）

学生に対する評価

試験（70%）： 期末テストによる評価

平常点（30%）： 提出物など学習プロセスに対する評価

授業科目名： 情報行動論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小方孝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：ロシア・ウクライナ戦争の文脈における偽情報（戦）と物語情報（戦）を巡る人間の情報行動</p> <p>到達目標：人間行動論とは何かの理解と知識獲得／偽情報・物語情報との関連での人間行動の特性の理解と知識獲得／ロシア・ウクライナ戦争の経緯・現状・日本や日本人にとっての意味の理解、特に上記全項目と関連した自発的考察能力の涵養</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報行動論の基礎理論を紹介した上で認知科学／人工知能・物語論に基づくアプローチを示し、特にロシア・ウクライナ戦争の文脈において日本でも注目されている偽情報（戦）や物語情報（戦）に焦点を当て、それらを巡る人間の情報行動について、豊富な実例をもとに紹介・考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：（情報メディア論への様々なアプローチ）情報メディア論への人文・社会科学的、科学的・工学的アプローチを総覧し、本授業のスタンスを紹介する。</p> <p>第2回：（情報メディアの種類と多層性）情報メディアの歴史、種類、多層性等の基礎的問題を議論する。</p> <p>第3回：（メディアとコンテンツ）現代社会において、道具としてのメディアと作品としてのコンテンツとは密接に結びついている。二つの区別と関係について述べる。</p> <p>第4回：（認知科学とA I）情報メディアを分析・生成（制作）するための基礎理論の一として、認知科学とA I（人工知能）について概説する。</p> <p>第5回：（ナラティブ・テクノロジー）情報メディアを分析・生成（制作）するための基礎理論の二として、物語生成等ナラティブ（物語）・テクノロジーを紹介する</p> <p>第6回：（認知科学とA Iによるメディアとコンテンツへのアプローチ（1）—言語）認知科学とA Iによる、言語や比喩の分析・生成研究について紹介する。</p> <p>第7回：認知科学とA Iによるメディアとコンテンツへのアプローチ（2）—映画（認知科学とA Iによる、映画や映像芸術の分析・生成研究について紹介する。）</p> <p>第8回：（認知科学とA Iによるメディアとコンテンツへのアプローチ（3）—文学）認知科学とA Iによる、詩や小説の分析・生成研究について紹介する。</p> <p>第9回：（認知科学とA Iによるメディアとコンテンツへのアプローチ（4）—ゲーム）認知科学とA Iによる、テレビゲームの分析・生成研究について紹介する。</p>			

第10回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（5）—広告1）認知科学とAIによる、映像広告の分析・生成研究について紹介する。

第11回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（6）—広告2）認知科学とAIによる、映像広告の分析・生成研究について紹介する。（続）

第12回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（7）—障害者支援）認知科学とAIを援用した、ASDの行動・思考分析や障害者支援研究について紹介する。

第13回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（8）—音楽）認知科学とAIによる、音楽の分析・生成研究について紹介する。

第14回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（9）—演劇と歌舞伎）認知科学とAIによる、演劇や歌舞伎の分析・生成研究について紹介する。

第15回：（まとめ）本授業全体をまとめる。必要なら不足の部分を補足する。

定期試験

テキスト

小方孝（単著）（2023）．『物語戦としてのロシア・ウクライナ戦争』．新曜社．

参考書・参考資料等

随時指定する予定

学生に対する評価

筆記試験（80％）、その他小試験（20％）

授業科目名： プログラミング I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：松井進 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標			
UNIXプログラミングについて基礎から学ぶ。UNIXは、インターネットプロバイダのサーバOS、スマートフォンのOS、車やテレビなどの組み込みシステムのOSなど広く用いられている。UNIXでは、単機能な小さなプログラム(コマンド)が多数用意されており、これらを組み合わせる目的のプログラムを作成するというツールキットアプローチを用いることができる。UNIXツールの使い方を学び、UNIXを利用したプログラムの開発手法、デバッグの方法、および、プログラムの改善方法などを体験的に学ぶ。			
授業の概要			
まず、簡単なUNIXコマンドを学びUNIXに触れてみる。UNIXのファイルシステムや入出力の仕組みなどの特徴について学ぶ。次に、UNIXのコマンドインタプリタであるshellの使い方に慣れる。UNIXの代表的なツールであるgrep, sed, awkなどのフィルタの使い方を学び、その有用性を体感する。UNIXコマンドを組み合わせる作成するshellプログラミングの方法を学ぶ。最後に、具体的な例をもとに、UNIXでのプログラム開発を体験する。			
授業計画			
第1回：UNIX入門 簡単なコマンド			
第2回：UNIXのファイルシステム --- ファイルの種類、ディレクトリ、inode、			
第3回：shellの利用(1) --- コマンド行の構造、メタキャラクタ、新しいコマンドの作成方法			
第4回：shellの利用(2) --- コマンドの引数、シェル変数、入出力の切り替え			
第5回：UNIXフィルタ --- grep, sed			
第6回：UNIXフィルタ --- awk(1)			
第7回：UNIXフィルタ --- awk(2)			
第8回：shellプログラミング(1) --- ループの作成			
第9回：shellプログラミング(2) --- 割り込み			
第10回：shellプログラミング(3) --- ファイルの置換			
第11回：shellプログラミング(4) --- ブランクと引数			
第12回：UNIX によるプログラム開発(1) --- 標準入力			
第13回：UNIX によるプログラム開発(2) --- プログラムの引数			
第14回：UNIX によるプログラム開発(3) --- ファイルアクセス			
第15回：最終課題			
定期試験			

テキスト

UNIXプログラミング環境 (Brian W. Kernighan, Rob Pike 著 石田 晴久 監修, アスキー・ドワンゴ)

参考書・参考資料等

入門UNIXシェルプログラミング—シェルの基礎から学ぶUNIXの世界 (ブルース・ブリン 著 山下 哲典 訳、ソフトバンククリエイティブ)

新しいLinuxの教科書 (三宅 英明 大角 祐介 著、ソフトバンククリエイティブ)

学生に対する評価

授業でのミニレポート(60%)と最終課題(30%)、授業への貢献度(10%)により総合的に判断する。

※授業への貢献度の評価基準

- 4 : 授業の内容を理解し、それを使うことができる上で、周りにもそれを教えることができる。
- 3 : 授業の内容を理解し、使うことができるが、周りにそれを教えることはできない。
- 2 : 授業の内容は理解しているが、それを使うことができず、周りに聞くこともできない。
- 1 : 授業の内容が理解できず、授業への参加の意欲も見られない。

授業科目名: プログラミングⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 1単位	担当教員名:小林彰夫 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 プログラミング言語Javaを利用した簡単なプログラムを学生自身で作成できるようになる。			
授業の概要 開発言語として広く使われているJava言語を通して、オブジェクト指向型パラダイムを学ぶ。			
授業計画 第1回:Javaプログラミングのガイダンスと授業参加の事前準備 第2回:Javaプログラムの基本構造・式と演算子 第3回:条件分岐と繰り返し処理 第4回:配列とデータ構造 第5回:メソッドとオーバーロード 第6回:Javaにおけるオブジェクト指向 第7回:インスタンスとクラス 第8回:継承と抽象クラス・インターフェース 第9回:Javaにおける多態性とカプセル化 第10回:文字列処理 第11回:コレクション 第12回:例外処理 第13回:ファイルの読み書き 第14回:データベース操作 第15回:講義の振り返りと発展的課題 定期試験 なし			
テキスト スッキリわかるJava入門 第4版(中山清喬 国本大悟 著、インプレス)			
参考書・参考資料等 Javaプログラミングに関する補足情報をまとめた資料を配布。			
学生に対する評価 各回授業での演習問題への取り組みを50%、課題(宿題)への取り組みを50%として評価する。			

授業科目名： コンピュータアーキテクチャ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐々木淳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、コンピュータの動作原理、論理回路による機能実現方法、OSやソフトウェアの役割などについて学び、コンピュータの理解を深めることを目標とする。			
授業の概要 前半は、フォンノイマン型コンピュータの動作原理、構成要素（CPUと主記憶装置など）と仕組みについて解説する。後半は、コンピュータを高速化する手法、マルチプログラミングによる並列処理、性能評価方法（MIPS、FLOPS、ベンチマークなど）、スーパーコンピュータの最新情報や応用例などについて学ぶ。			
第1回：コンピュータアーキテクチャとは 第2回：コンピュータシステムにおけるハードウェアとソフトウェアの機能分担 第3回：ノイマン型コンピュータの基本ハードウェア構成 第4回：基本命令セットアーキテクチャ 第5回：コンピュータにおける数値データ、文字の表現 第6回：論理代数 第7回：組み合わせ論理回路 第8回：順序回路 第9回：CPUの構造、AIUアーキテクチャ（演算の高速化手法） 第10回：記憶装置のアーキテクチャと動作原理 第11回：入出力装置を含むコンピュータシステムの動作 第12回：マルチプログラミングによる並列処理 第13回：コンピュータシステムの性能評価方法 第14回：スーパーコンピュータの動向と応用例 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 講義資料を配布			
参考書・参考資料等 コンピュータアーキテクチャの基礎（柴山潔著，近代科学者） コンピュータシステムの性能評価（佐々木淳著，杜陵高速印刷出版部）			

デジタル回路（島田正治、穂刈治英、安川博、塩田宏明著，朝倉書店）

学生に対する評価

平常点（20%）、課題・小テスト点（30%）、期末テスト（50%）の総合評価を行う。

授業への取り組み状況を通して平常点を付与する。

授業科目名： データサイエンス基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：名倉賢 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報システム		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データサイエンスの全体像を把握する。 ・ 「AI / 統計」「通信 / インターネット / IoT」「計算機」「ブロックチェーン / NFT」の4分野から選んだ13の重要テーマの概略を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>デジタル社会を支える技術基盤がデータサイエンスである。デジタル社会をより良く生き抜くには、人工知能に代表される様々なデータサイエンスの技術やコンセプトを活用できる大局的な視点を獲得することが鍵を握る。本講義では、「AI / 統計」「通信 / インターネット / IoT」「計算機」「ブロックチェーン / NFT」の4分野から選んだ13テーマを概説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに</p> <p>第2回：AI/統計① 機械学習</p> <p>第3回：AI/統計② 回帰モデル</p> <p>第4回：AI/統計③ 主なAIアルゴリズム</p> <p>第5回：AI/統計④ ディープラーニング</p> <p>第6回：通信/インターネット① 情報エントロピー①</p> <p>第7回：通信/インターネット② 情報エントロピー②</p> <p>第8回：通信/インターネット③ 暗号①</p> <p>第9回：通信/インターネット④ 暗号①</p> <p>第10回：計算論① 計算とは何か</p> <p>第11回：計算論② 有限オートマトンとチューリングマシン</p> <p>第12回：計算論③ 万能チューリングマシンとノイマン型コンピュータ</p> <p>第13回：ブロックチェーン/NFT① PoWの仕組み</p> <p>第14回：ブロックチェーン/NFT② Web3.0の世界観</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>情報（第2版）（山口和紀 編、東京大学出版会）</p>			

大学4年間のデータサイエンスが10時間でざっと学べる (久野遼平ほか 著、KADOKAWA)

深層学習 (改訂第2版) (岡谷貴之 著、講談社)

知能の物語 (中島秀之 著、効率はこだて未来大学出版会)

シャノンの情報理論 (高岡詠子 著、講談社)

現代暗号入門 (神永正博 著、講談社ブルーバックス)

暗号技術入門 (第3版) (結城浩 著、SBクリエイティブ)

現代数学概論 (赤根也 著、ちくま学芸文庫)

チューリングの計算理論入門 (高岡詠子 著、講談社ブルーバックス)

学生に対する評価

試験 (70%) : 期末テストによる評価

平常点 (30%) : 提出物など学習プロセスに対する評価

授業科目名: コンピュータシステム基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:小林彰夫 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
授業のテーマ及び到達目標 コンピュータサイエンスに関する高度な専門知識を学ぶ上で必要な基礎知識を身につける。			
授業の概要 コンピュータのハードウェアやソフトウェア、ネットワークに関する基礎知識を学ぶ。			
授業計画 第1回:ガイダンス(コンピュータサイエンス系科目における本講義の位置づけ) 第2回:コンピュータと社会・コンピュータの歴史 第3回:情報の表現方法 基本的なデータやメディアのデジタル表現 第4回:論理回路の基礎 第5回: コンピュータにおけるハードウェア(1)～CPU～ 第6回: コンピュータにおけるハードウェア(2)～メモリ～ 第7回: コンピュータにおけるハードウェア(3)～入出力デバイス～ 第8回: コンピュータにおけるソフトウェア(1)～オペレーティングシステム～ 第9回: コンピュータにおけるソフトウェア(2)～コンピュータとプログラム～ 第10回: コンピュータにおけるソフトウェア(3)～データベース～ 第11回: コンピュータネットワーク(1)～ネットワークの基礎～ 第12回: コンピュータネットワーク(2)～ローカルエリアネットワーク～ 第13回: コンピュータネットワーク(2)～インターネット～ 第14回: システム開発とマネジメント 第15回: 情報倫理とセキュリティ・授業の振り返り 定期試験 あり			
テキスト コンピュータ概論 第9版(魚田勝臣 編著 渥美幸雄 植竹朋文 大曾根匡 森本祥一 綿貫理明 著、共立出版)。また、各回授業で資料を配布する。			
参考書・参考資料等 改訂コンピュータ概論(半谷精一郎 長谷川幹雄 吉田孝博 著、コロナ社)			
学生に対する評価 定期試験の成績60%、各回授業で課される課題(レポート)の成績を40%として評価する。			

授業科目名： データベース工学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松井進 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>コンピュータにより大量のデータを効率よく管理，処理するデータベースの基本概念とデータモデル，関係データベースおよびデータベース管理システムの構築および運用方式を修得する。その結果、1. データベースを利用する際のスキーマ設計ができる。2. SQLで問合せを記述することができる。3. データベース管理システムがどのようにデータを管理し検索するかを説明できる。ことを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>データベースは、あらゆる組織の基幹業務や意思決定にとって必要不可欠なものとなっている。データを蓄積し、再利用することは、計算機利用の主たる目的の一つであり、データベースの分野でさまざまな技術が開発されている。このようなデータベースの基礎技術を解説する。</p> <p>具体的には、大量データを効率よく管理し必要な情報を簡単かつ高速に検索するデータベース管理システムに関し、代表的なデータベースである関係データベースを中心に、データモデル，関係代数，正規形理論，データベース言語SQL，障害時回復，同時実行制御などについて講述する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：データベースとは何か：データベースの定義，データモデル</p> <p>第2回：関係データモデル(1)：関係，属性，キー</p> <p>第3回：関係データモデル(2)：一貫性制約記述，データベーススキーマ</p> <p>第4回：関係代数(1)：和集合，差集合，共通集合，直積</p> <p>第5回：関係代数(2)：射影，選択，結合，商</p> <p>第6回：データベースの設計(1)：更新時異常，情報無損失分解，多値従属性</p> <p>第7回：データベースの設計(2)：関数従属性，高次の正規形</p> <p>第8回：データベースの設計(3)：関係データベースの正規化</p> <p>第9回：データベース言語SQL(1)：問合せ言語SQL</p> <p>第10回：データベース言語SQL(2)：SQLの構文，単純質問</p> <p>第11回：データベース言語SQL(3)：結合質問，入れ子型質問</p> <p>第12回：データベース管理システム：スキーマ構造，ビュー，DBMSの機能</p> <p>第13回：トランザクション(1)：トランザクション管理，障害時回復</p> <p>第14回：トランザクション(2)：同時実行制御</p> <p>第15回：データベースの応用</p>			

定期試験
テキスト 適宜、プリントを配布する。
参考書・参考資料等 データベースシステム（北川博之著 オーム社）
学生に対する評価 授業で取り上げた基礎的なデータベースを対象とした期末試験（100％）により成績を評価する。期末試験で6割以上の成績であれば合格とする。

授業科目名: 情報システム	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:小林彰夫 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
授業のテーマ及び到達目標 情報通信技術を利用したシステムを具体的に分析し背景技術を説明する能力を身につける			
授業の概要 私たちの身の回りのさまざまなシステムやサービスの背後にある情報通信技術について学ぶ。			
<p>授業計画</p> <p>第1回:情報システム論ガイダンス・事例研究の準備</p> <p>第2回:情報システムとコンピュータ</p> <p>第3回:社会基盤における情報システム</p> <p>第4回:生活基盤における情報システム</p> <p>第5回:行政における情報システム</p> <p>第6回:ビジネスにおける情報システム</p> <p>第7回:インターネットを利用したビジネスと情報システム</p> <p>第8回:事例研究の中間発表</p> <p>第9回:顧客情報と情報システム</p> <p>第10回:組織における情報システム</p> <p>第11回:情報共有と検索</p> <p>第12回:情報システムと倫理</p> <p>第13回:情報システムの新しい展開</p> <p>第14回:事例研究の最終発表(1)</p> <p>第15回:事例研究の最終発表(2)・学習の振り返り</p> <p>定期試験 なし</p>			
テキスト IT Text 情報システム基礎(神沼靖子 編著、オーム社)			
参考書・参考資料等 各回授業資料を配布する。			
学生に対する評価 各回授業で課される課題(レポート)の成績を50%、事例研究の成績を50%として評価する。			

授業科目名： コンピュータネットワ ーク	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松井進 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では以下の項目を到達目標とする。</p> <p>(1) OSI参照モデルにおける各レイヤの機能、役割が説明できること。</p> <p>(2) TCP/IPを用いたネットワークシステムの原理を理解し与えられた条件に沿ったアドレス計算ができること。</p> <p>(3) クライアントサーバシステムの原理と構造が説明できること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>インターネット技術は人々のあらゆる生活行動の中で大きな役割を果たしている。現代の社会基盤として定着したネットワーク技術につき、TCP/IPの各レイヤ毎に解説する。特にインターネット技術の中核であるIPレイヤについては、アドレス計算、ルーティングプロトコル、IPv6など詳細に解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、情報通信ネットワークの概要</p> <p>第2回：ネットワーク階層モデルと通信プロトコル</p> <p>第3回：物理レイヤ及びデータリンクレイヤ（通信プロトコルの基礎）</p> <p>第4回：データリンクレイヤ（誤り制御）及びLAN</p> <p>第5回：LAN間接続、無線LAN及びLPWA</p> <p>第6回：ネットワークレイヤ（IPアドレスとパケットフォーマット）</p> <p>第7回：ネットワークレイヤ（ルーティング）</p> <p>第8回：ネットワークレイヤ（IPv6）</p> <p>第9回：前半のまとめ</p> <p>第10回：トランスポートレイヤ（ポート番号、接続制御）</p> <p>第11回：トランスポートレイヤ（誤り制御、フロー制御、輻輳制御）</p> <p>第12回：アプリケーションレイヤ及びクライアントサーバシステム</p> <p>第13回：IoT向けネットワーク技術</p> <p>第14回：最新の技術動向</p> <p>第15回：後半のまとめ</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

よくわかる情報通信ネットワーク（山内雪路 著 東京電機大学出版局）

参考書・参考資料等

コンピュータネットワーク第4版（タネンバウム著、日経BP社）

TCP/IPによるネットワーク構築<Vol. 1>第4版（コマー著、共立出版）

学生に対する評価

授業中に提出を求める小テスト、課題（30%）、定期試験（70%）により総合的に評価する。

授業科目名: 信号処理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:佐々木淳 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報通信分野で用いられている機器の信号処理の仕組み、特にデジタル信号処理の基礎知識を習得することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>最初に、アナログとデジタルの違い、アナログからデジタルへの変換方法(標本化と量子化)、デジタルからアナログへの変換方法(比較器を用いた方法など)を学ぶ。中間では、フーリエ変換、ラプラス変換、z変換などデータの解析と特徴抽出方法について学ぶ。後半では、A-D・D-A変換、デジタルフィルタなど信号処理の応用事例について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:信号処理の概要</p> <p>第2回:アナログとデジタルの違い</p> <p>第3回:アナログからデジタルへの変換方法</p> <p>第4回:デジタル信号処理システムの基礎</p> <p>第5回:信号処理で用いる数学的知識の基礎</p> <p>第6回:離散時間信号</p> <p>第7回:離散フーリエ変換</p> <p>第8回:高速フーリエ変換</p> <p>第9回:ラプラス変換</p> <p>第10回:z変換</p> <p>第11回:A-D・D-A変換</p> <p>第12回:デジタルフィルタの基礎</p> <p>第13回:FIRフィルタの設計</p> <p>第14回:IIRフィルタの設計</p> <p>第15回:まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>講義資料を配布</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>Python対応 デジタル信号処理(樋口龍雄 監 阿部正英 八巻俊輔 川又政征 共著、森北出版株式会社)</p>			

デジタル信号処理の基礎(島田正治 安川博 伊藤良生 田口亮 張熙 岩崎政宏 共著、コロナ社)

デジタル信号処理の基礎(辻井重男 監、電子情報通信学会)

Excelで学ぶデジタル信号処理の基礎(深山幸穂 深山理 深山覚 共著、コロナ社)

デジタル信号処理(田中賢一著、近代科学社Digital)

デジタル電子回路(島田正治 穂刈治英 安川博 塩田宏明 共著、コロナ社)

コンピュータシステムの性能評価(佐々木淳著、杜陵高速印刷出版部)

学生に対する評価

平常点(20%)、課題点(30%)、期末テスト(50%)の総合評価を行う。

授業への取り組み態度を通して平常点を付与する。